

製品名: EDG-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10296**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	S1PR1 S1PR1; CHEDG1; EDG1; Sphingosine 1-phosphate receptor 1; S1P receptor 1; S1P1;
別名	Endothelial differentiation G-protein coupled receptor 1; Sphingosine 1-phosphate receptor Edg-1; S1P receptor Edg-1; CD antigen CD363
遺伝子 ID	1901.0
SwissProt ID	P21453
免疫原	抗血清はヒト EDG1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 5-54

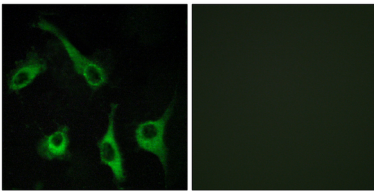
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Gタンパク質共役受容体と構造的に類似しており、内皮細胞で高発現しています。リガンドであるスフィンゴシン 1 リン酸に高親和性かつ高特異性で結合し、内皮細胞の分化を制御するプロセスに関与している可能性が示唆されています。この受容体の活性化は細胞間接着を誘導します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016年3月]、機能: リゾスフィンゴ脂質スフィンゴシン 1 リン酸 (S1P) の受容体。S1Pは、ほとんどの種類の細胞や組織に多様な生理学的効果をもたらす生理活性リゾリン脂質です。この誘導性上皮細胞 Gタンパク質共役受容体は、内皮細胞の分化を制御するプロセスに関与している可能性があります。ヘテロ多価 Gタンパク質の G(i)サブクラスに結合していると思われる。誘導: シクロヘキシミド存在下での腫瘍プロモーターであるホルボール 12-ミリステート 13-アセテート (PME) によって、PTM: S1P 誘導性内皮細胞遊走には、Thr-236 残基における 3 番目の細胞内ループの PKB/AKT1 を介したリン酸化が必要である。類似性: Gタンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。組織特異性: 内皮細胞、および程度は低い血管平滑筋細胞、線維芽細胞、メラノサイト、類上皮細胞由来の細胞にも結合している。

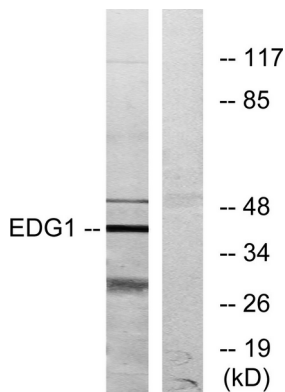
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

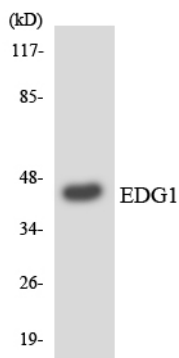
画像データ



EDG1 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。

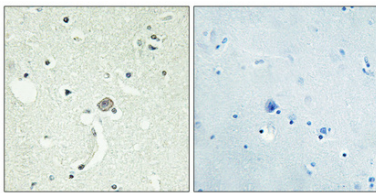
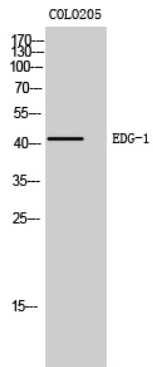


COLO205 細胞ライセートの EDG1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



EDG1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

EDG-1 ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。